昭和八十八年十一月十三日（水曜日）　西成なるへそ新聞　第21号（1）©Ko Yamada & Breaker Project

西
成
なるへそ新聞
21

発行：西成なるへそ新聞社
ブレーカープロジェクト実行委員会

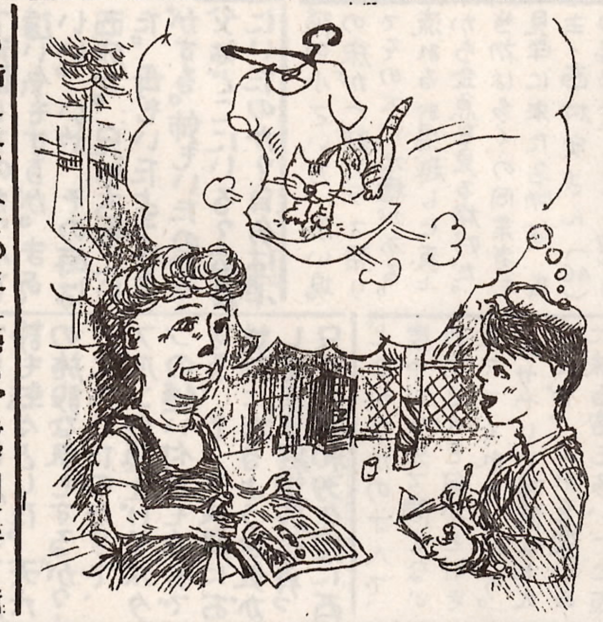
発行人：山田亘
編集：ブレーカープロジェクト実行委員会
山田亘・村田仁
図案：村田仁

記憶の地図

なるへそ新聞販路拡大

思い出はニュースだ

西成なるへそ新聞社（大阪市西成区）は三月末同紙の創刊を発表した。西成区で芸術活動を展開するブレーカー・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独創的な新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化同様新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間をかけて記事が差し変わって行くというユニークな形式だ。人が人に話を聴き、手作りで遺していく「手書き」の新聞。個人的な思い出話を、それが何年前のものでも新聞記事として現在の事のように扱うことで新旧の家々やそこに住む人々の記憶が入れ子の様に混在するリアルな都市の姿をこの新聞は体現すると、同紙編集長山田亘氏は語る。同社は一般参加の記者を公募中。参加する記者達の取材の過程そのものが人から人への歴史の橋渡しともなっていく。



なるへそ記者

「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れる事の出来ない大きな戦争体験ですら徐々に個人のディティールを失って単なる「歴史の一ページ」となって行く現在、この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「暮らしの体験談」を聞き出していただきたいと同社広報の村田仁氏は語る。時空間を貫く街の移り変わりの姿を一緒に作っていく「なるへそ記者」には報道腕章とメモ帳が支給され一年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能だ。

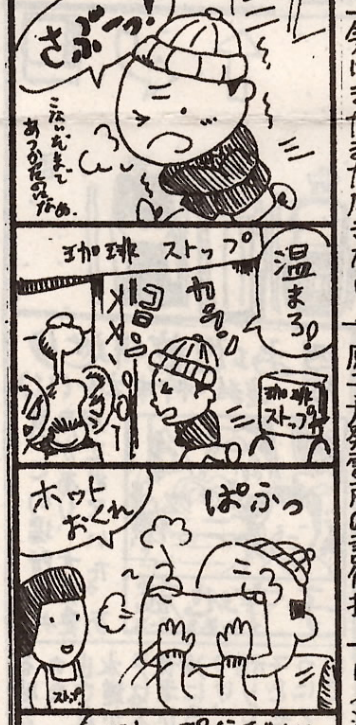
やわらか頭で発明豆腐

田村豆腐製造所の田村さんは18才で若くして独立した際の借入金の金利年60%に打ち勝つため様々なアイデアを繰り出してきた。起業五年で一般に知られていない高級メニューだった料亭豆腐の開発に成功、市南部の同業者の店にショーケースを貸出し販売し好評を博した。特許も申請したが模倣商品も続出。新商品として玉羊かんをヒントにゴムに玉子豆腐を詰め、列車のお供と考え出すが、日持ちと楊枝で指すと汁が飛び散る問題を解決できず断念。次は具材入りのアルミ鍋をコンロにかけるだけのすき焼き鍋セットを開発、好評で主力商品となり大阪中のスーパーから見学が押し寄せている。更に進化した、ひもを引き着火して温める湯豆腐セットは確実な着火に苦戦中だが、発明豆腐屋田村さんのアイデアとやる気はまだまだ尽きない。

壁新聞設置

約六、七ヶ所

なるへそ新聞社（大阪市西成区）はこのほど「なるへそ壁新聞」を山王及び太子を中心に店舗前や商店街の壁スペース等約六、七カ所に設置する。今回の設置は新聞の存在を知っていただくためのもので、三月に発行された第一号をA1サイズのポスターに復刻したものが貼り出される。雨の季節に撥水加工の必要等も叫ばれているが、大きくなった新聞に目を留めて頂ければと期待がふくらんでいる。


西成くん
作・ムラタジン
さぶーっ!
こないだまであつかったのになぁ。
珈琲ストップ
温まろ!
カラン
珈琲ストップ
ホットおくれ
ぽふっ
ストップなだけに、わしはもう、うごかんで～!
ベタやね

いつ行くの？

～水のいいおふろ～

今池湯従業員サブローさん（54）は、ご主人さんから運営全般をまかされ、八人の部下とともに働く。勤務は朝四時から午前二時までと受験生並み。ご主人のご子息が医学の道に進まれたこともあり、サブローさんに対する期待は大きい。前職が、原子力発電所の設備技師で手先が器用だったこともあり、銭湯のボイラーの修理はお手の物。そんなサブローさんの唯一の楽しみはパチンコ。生来の器用さで、パチンコの腕前も超一流とサブローさんの友人も熱く語る。水質が良いとご近所で評判な今池湯は、男性客が非常に多く、男性専用の銭湯を目指し、女湯との壁を撤去し、大きな浴槽を備えた設備に改修工事を計画中である。大きくなった今池湯に期待が膨らむ。水質偏差値が高い銭湯に皆さん【今！行け（池）でしょう】

新築の進歩と調和

外装工事を終えた物件を仰ぎ見て永岡芳弘さん（31）は感慨深げだ。父が興した工務店を兄弟と三人で継いで三年、設計施工を一貫して任された何軒目かの新築住宅。二階建てが軒を連ねる北門通りの中でもその家の二階壁面は目を引いた。幅五間、8mにわたり石垣のように傾斜した壁が屋根を支えている。それは先年開催された万国博覧会のパビリオン・ソ連館に想を得たものであった。100mを超す主柱と山嶺のごとくそびえる紅い壁。その威容に万国博覧会を訪れた永岡さんは圧倒された。「このド迫力を自分の建築でも表現したい。」そんな思いをこの新築住宅に込めた。色は無難な茶系に抑えたため、すぐにソ連館を連想する人はいないだろう。実は施主にも伝えていない。それでも今の自分の思いが詰まっており、芳弘さんには、これが後々まで忘れられない物件になりそうな予感がしていた。

短秋厳冬

気象予報

天気予報は毎日報じているが、季節に対して気象予報は少ない。今年は例年にない酷暑、立秋を告げても各地で最高の暑さを示しているのを見ると、何とも言えぬ秋の好節は短く終わるとの予報である。秋は体育行楽に最適の日和が続くと記録が示しているのに、今年の秋は暑秋の日が多く秋らしい好気象の日は少ないとの予報である。こんなことは初めてだと言うのだ。このような秋の短季節に引き継いで、それではどのような冬を迎えるのかという気象予報のニュースを見るとこれまた大変なことだ。立冬を告げると、大雪山の初冠雪、旭川、札幌の初雪も1カ月早いと報じられている。短い秋に比べ冬は厳しい寒さが早く訪れると言うことだ。何とも言えぬ自然気候の現状をまざまざと見せつけられている。今年の気候は一体どのように変化したというのだろうか？

秋葉忠太郎　冠

風車
発行　黒田信子
定価百円

広告主求ム

今池湯
ゆ
太子2丁目1-11

kioku 手芸館
たんす
開館日
11月14・16・21・23・27・28日
12月4・5・11・12・19・21・26日
山王1-11-5（元・鈴木タンス店）

全酒類　食品販売
BEER　WHINE　BRANDY　SAKE
柳本商店
山王1丁目12番4号

大阪市現代芸術創造事業
ex・pots 2011-2013
Breaker Project
山王・飛田・太子・新世界
地域密着型アートプロジェクト
http://breakerproject.net